椎の実（しいのみ）

No.110
平成30年
３月15日発行

岐阜県手をつなぐ育成会 会報

～手をつなぐ育成会は知的障害をもつ人の家族の会です～

椎の実ギャラリー

「みんな　仲良し」　飛騨特別支援学校　本校
中学部3年　小島（こじま）　岳留（たける）くん

美術の時間に「夏休みに１番心に残っていることを描こう」をテーマに、大好きな家族とプールに行った時の思い出を描きました。この絵に描いているのは、僕と、お父さん、お母さん、妹の４人です。みんな楽しく遊んだので、表情は「笑顔」にしました。特にこだわったのは「色」です。みんなにあった色を選んで塗ることで、家族一人一人を表現しました。

僕はとても家族が好きなので、これからも仲の良い家族でいたいです。

110号の主な内容

○私の町の育成会
○委員会活動
○知ってほしい私たちのこと
○ぎふのいいもの

表紙の作品募集中！あなたの作品の写真を送ってください。採用された方には、図書券をプレゼント！

新年度に向けて

岐阜県手をつなぐ育成会理事長　春見　鉄男

来年度の障害福祉関係では、施行から三年を経た障害者総合支援法の見直しがなされ、報酬改定の検討とともにその内容が具体化され、来年度より施行されます。この動きが共生社会を推し進め、地域生活をより良いものになるよう着実に働きかけていかなければなりません。また、障害のある人の高齢化も進むなか、超高齢社会の到来による様々な課題の解決に向けた具体策が、より効果的な対応となっていくことも大切です。

育成会としての大きな課題として、会員の高齢化や若い世代の入会者が少ないこと、それに伴う会員の数が減少していることです。時代の流れに合わせて育成会も変わっていくことが求められています。

そこで会員ではない方とのつながりをどう作るかという大きな課題があります。具体的には特別支援学校に子どもが通っている方たちとの意見交換を行うことなどつながる機会を増やせば、本当に困ったときに相談して入会していただけるはずです。育成会に限らず、どこかの団体とはつながって、困ったときに頼れる、うれしい時には一緒に喜べるといった顔の見える関係ができればと思っています。

また活動をしていて、「やらされている」のではなく、自分たちで決めて「やりたいことをやる」。そして「参加して良かった」「楽しかった」という声が大きくなれば、「育成活動は大変」という声は小さくなります。同じ育成会の会員でも互いの存在を知らないことも多いのですが、いつも顔を合わせていなくても、「あそこに育成会の会員さんがいる」と分かれば、災害時等にも支え合ったり、情報交換もできるのではないでしょうか。つまり、日々の身近な活動そのものを積み重ねていく必要があります。

次に、若い世代につなげていくためには、世代交代が重要だと思います。私たちは現在、当たり前のように「本人の意思決定支援」という言葉を使っていますが、世代によって感じ方が違います。かっては「親の言うことが一番」と言われた時もありましたが、本人活動とのつながりをもっと強くしていくべきです。本人に寄り添った支援が次の世代につないでいく上では大切なことです。

全国手をつなぐ育成会連合との関係については、地域からの意見がまずあって、それをまとめて行政に結びつけるのが中央の役割だと思います。そのためにはもっとお互いの関係性を強くしていかなければと思います。

最後に、今まで岐阜県手をつなぐ育成会でやってきた活動というのは、『手をつなぐ』冊子などで見た他の地域の会の活動を参考にしているものが多くあります。各地域でやっている良い活動をどんどん取り入れ、活性化につなげ、会員の「生の声」を聴く機会を設けていきたいと思います。

平成30年度 年間予定

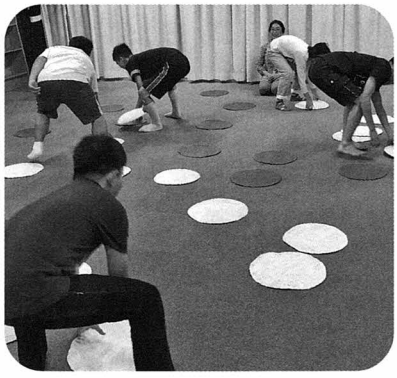
6月24日（日）	第60回	岐阜県手をつなぐ育成会総会及び羽島大会	羽島市
9月24日（月・祝）	第16回	ドリームスポーツ大会	
10月13日（土）～15日（月）	第18回	全国障害者スポーツ大会	福井市
10月26日（金）	第35回	岐阜県障害児・者の教育と福祉振興大会	大垣市
10月27日（土）28日（日）	第51回	手つなぐ育成会東海北陸大会	志摩市
2月23日（土）～24日（日）	第５回	全国手をつなぐ育成会連合会全国大会	京都市

私の町の育成会

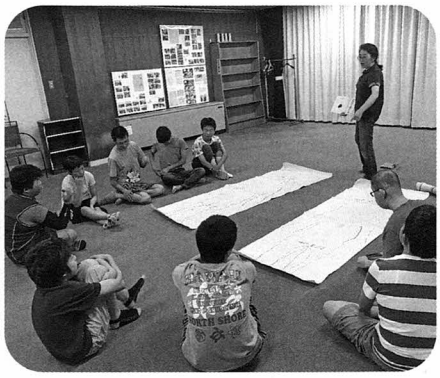
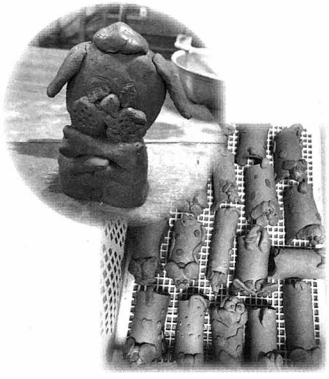
「夜の定例学習会」

～羽島市手をつなぐ親の会～
理事長　川尾　こず枝

羽島市手をつなぐ親の会では、平成28年度は「夜の茶話会」として、隔月第2火曜日に親たちの意見や思いの交流会や学習会を行いました。平成29年度は「夜の定例学習会」と改めて、偶数月は本人の部（中学生以上を対象）、奇数月は親の部として、毎月一回の学習会を行いました。



本人の部では、「ジャンボオセロゲーム」や「ふれあいゲーム」を通して人との関わり方を学びました。また、誕生日会を通して命の大切さを学んだり、選挙間近には投票の意義も考えたりしました。12月には、陶芸教室の先生にご協力頂き、2018年の干支の犬を親の手を借りずに作りました。

親の部では、福祉ぼうさい研究所の方にご協力頂き、羽島市の防災対策の現況やSOSファイルの重要性や活用法、障がい児・者とその家族の避難について学びました。また、

社会保障・障害福祉の大転換「我が事・丸ごと」について、今の日本で何が起こっているのか？これからどうなってしまうのか？知らなかったでは困る事をたくさん学びました。

子ども達の生活が少しでも豊かになるように、この様な活動を続けていきたいと思います。

委員会活動

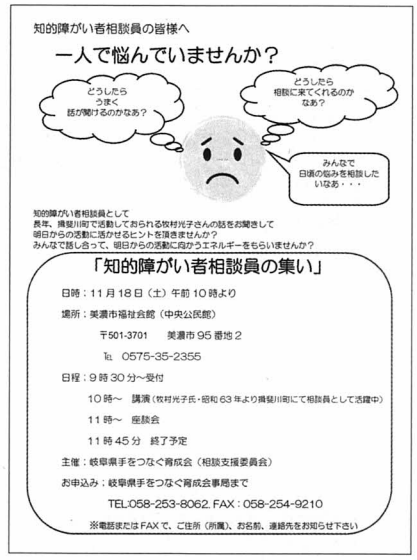
相談支援委員会

第１回　知的障がい者相談員の集いを開催しました

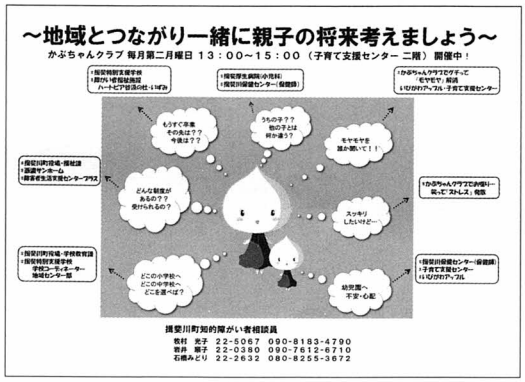
岐阜県手をつなぐ育成会　副理事長
相談支援委員会　**田中　眞澄**

相談支援委員会活動として、「知的障がい者相談員の集い」を 11 月 18 日に美濃市で開催しました。

相談支援委員会は、今年度初めてできた委員会で、どのように活動を進めてゆけばよいのかよくわからないまま、スタートしました。委員会で話し合っているうちに、多くの方が市町村の「知的障がい者相談員」として任命されているけれど、うまく活動できていない実態や、知的障がい者相談員だけの研修会が開かれていない地区が多いこともわかりました。そのため、行政の協力を得て、活発に活動しておられる牧村さんの体験談を伺い、今後の活動の参考にさせていただきたいと思い、この集いを計画しました。



こんなチラシで参加を募りました



牧村さんが活動している相談会のチラシ

当日は、25 名の参加があり、行政とうまく連携しながら、「徹底的に聴く」ということに徹しておられる牧村さんの姿勢から、たくさんのことを学ばせていただきました。また、後半の座談会では、多くの相談員の方が、難しいケースに直面しておられる経験談を伺うことができました。

牧村さんの講演

活発な意見交換

参加者の感想では「意見交流の場ができてよかった」とか「連携や行政に繋ぐことの大切さを学んだ」などのご意見を頂き、このような機会を定期的に作っていくことが大切なのではないかと感じました。

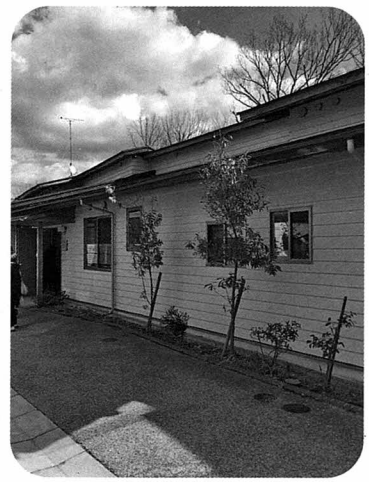
私自身も、「困った時にいつも一番身近なところにいる相談相手」になれたらいいなあ、といつも思っていますので、これからも一相談員として、学んだことを実行できるよう努力していきたいと思っています。

在宅委員会

委員会活動

社会福祉法人　北摂杉の子会
グループホーム「レジデンスなさはら」見学会

大阪府高槻市の住宅地の一角に位置する、三つの平屋の連なったグループホームです。入居者全員が重度の知的障害や自閉症の人たちです。住まいの質を確保するため、居室は全戸南向き、入居者のニーズに合わせ、オーダーメイドの居室を実現しています。



外から見た風景

●どんな利用者が暮らしているか➡定員20名うち区分6は17名

ご利用者	支援区分	行動点数
①	5	17
②	6	16
③	6	19
④	6	17
⑤	6	12
⑥	6	19
⑦	6	21
行動点数番館平均		17.3

ご利用者	支援区分	行動点数
⑧	5	19
⑨	6	21
⑩	6	19
⑪	5	9
⑫	6	19
⑬	6	9
⑭	6	21
行動点数番館平均		16.7

ご利用者	支援区分	行動点数
⑮	6	15
⑯	6	21
⑰	6	21
⑱	6	22
⑲	6	21
⑳	6	21
行動点数番館平均		20.2

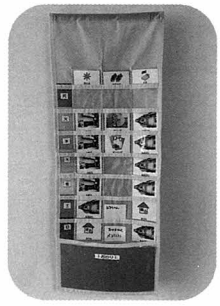
10点以上が強度行動障害

●運営方針➡当たり前の生活を丁寧に支援する

①美味しいものを食べること（シェフを採用）
②毎日お風呂に入る（一人ずつお湯を交換する）
③暑くなく寒くなく快適な室内
（誰にもわかりやすい温度管理）
④健康に暮らす（看護師の常勤）

●職員として➡誰が見ても疑問に感じない適切な支援

半数以上の人が福祉職は初めて。しかも、支援が難しい行動障害の人の支援を行っている。平成24年開設以来3件の虐待事例があったが、行動障害の特性を職員が共有し、支援の統一を図ることで不適切な事例が激減。その結果、利用者の生活も安定し、支援の向上につながっている。



目で見てわかりやすいスケジュール

何をする場所かわかりやすくするために、居室を改築して小部屋をつくっています
（構造化）

●見学を終えて➡普通に暮らすとは何か

重度知的障害者の入居比率が日本で最も高いグループホーム。強度行動障害や重い自閉症の人たちでも適切な環境と適切な支援があれば地域で暮らすことができることがわかりました。そして普通に暮らすことの大切さを、あらためて教えてもらいました。

啓発のページ　～知ってほしい　私たちのこと

「全国中学生人権作文コンテスト」岐阜県大会の作文をご紹介します。（法務局に転載の許可をもらっています）

平成29年度「全国中学生人権作文コンテスト」岐阜県大会 最優秀賞（岐阜県人権擁護委員連合会長賞）

世界中が優しくなるには

多治見市立笠原中学校３年　小川　華曜子

世界の人口は、約71億人です。その中で、「障がい」のある人は約６億人いると言われています。「障がい」のある人には優しくしなければならない、助けなくてはならない、だからそうする、という人は多いのではないでしょうか。さらには、それを実行するのに抵抗がある、という人もいるでしょう。私もかつてはそうでした。

私には、２つ下の弟、４つ下の妹、そして10歳下の弟がいます。このうち、上の２人は障がいを持って生まれました。弟と妹は、人とコミュニケーションを取ることが苦手です。私たちは人と話すとき、相手の気持ちを察したり、理解しようとしたりします。しかし、弟と妹は、その場の空気を読むことが苦手なのです。私は、自分が物心ついたときから一緒に暮らしてきたので、２人に障がいがあることを知りませんでした。普通に兄弟として仲が良かったし、おかしいとも思いませんでした。しかし、小学校に入学してから、少しずつ違和感を覚え始めました。他の子と自分の弟妹は違うのではないだろうか。そして、年が上がるにつれて、２人にいらだちを感じていくようになりました。障がいの影響で物事をうまく進められない２人といるのがつらくて、いつの間にか、遊ぶこともなくなっていました。友達といた方が楽だ、家にいると疲れてしまう。あるとき、ついに私は爆発してしまいました。２人のことで、気持ちがぐちゃぐちゃになってしまったのです。そのとき、母は私に　２人の障がいのことを話してくれました。

「２人は生まれつきハンディキャップをもっていて、私たちのようにうまく生活することが苦手。けれど、あの２人も生まれてくる意味があったから生まれてきてくれたんだよ。」でも、私にはその意味がよく分かりませんでした。まだ幼かったからでしょうか。２人を憎むことしかできませんでした。

それから２年ほど経った小学校４年生のとき、もう１人弟が生まれることが分かりました。私は泣きました。「また障がいをもって生まれてきてしまったらどうしょう。」怖くて、泣きじゃくりました。親とは、そのときどんな話をしたのか覚えていません。それから８ヶ月たって、もう１人の弟が生まれました。かわいかったけれど、障がいへの不安は消えないままでした。

それから４年。私は中学校２年生になっていました。あの頃とは違い、兄弟の事情については受け入れられるようになっていました。ただ、２人とは、あまり仲が良くないままでした。

そんなある日、学校であることが起こりました。学年の仲間が、特別支援学級にいる仲間に対してけなすような言葉を言っていたことが分かったのです。それを知ったとき、どうしょうもない怒りがこみあげてきました。

障がいのある人を否定されたように感じました。数日後、学年集会の場で、私は、弟と妹のことを話しました。泣きながら、一生懸命自分の思いを伝えました。本心で訴えました。話しているとき、自分が不思議でなりませんでした。２人のことは嫌いなはずなのになぜか２人のために涙を流している。なぜか切なくなってくる。なぜこんなに一生懸命になってしまうのだろう。そのとき初めて、「ああ、自分は弟や妹のことが大好きなんだ」と自覚した気がします。私は、ずっとそばで暮らしていて、２人の良さを知っていました。２人とも、人に優しいこと、何事にも一生懸命なこと・・。だから、私は２人のことが大好きだったんだと、やっと分かりました。

自分とは違う感じ方の人の立場に立ち、共感することは、簡単なことではないと思います。私も、何年もかけて、障がいを理解し、受け入れ、障がいのあるなしに関わらず人としての良さを実感することができるようになりました。だから、周りの人が「障がい」のある人に接することに抵抗があるのも理解できます。だからこそ、私が訴えていく意味があると思います。人は、周りの人と違う「障がい」の部分にばかり目を向けがちですが、避けるのではなく自分から接していくことで、相手の良さが分かり、自分も優しくなれるのだと思います。そして、そういう付き合い方を、みんなが誰とてもできるようになれば、いつか、世界中が優しくなる、今の私はそれを目指して、人と接しています。

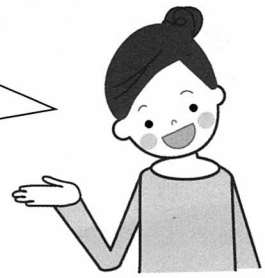
平成30年度　県大会のお知らせ

第60回岐阜県手をつなぐ育成会総会及び羽島大会

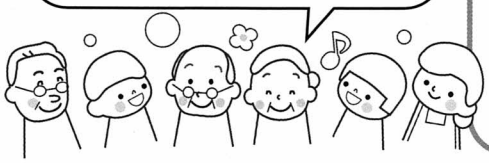
不二羽島文化センター

日　時　平成30年6月24日（日）　9：45～15：00
会　場　不二羽島文化センター　スカイホール
　　羽島市竹鼻町丸の内6丁目7　☎058-393-2231
内　容　午　前
　　【大会式典】
　　【総　　会】　平成29年度事業報告・収支決算報告
　　平成30年度事業計画・収支予算
　　午　後
　　【一般公開】　はちまん正人&羽島高校吹奏楽部
　　ジョイントコンサート

岐阜県の南部、東海道新幹線岐阜羽島駅、名神高速道路岐阜羽島インターチェンジを併せ持つ「岐阜県の表玄関」羽島市で平成30年度の岐阜県手をつなぐ育成会総会及び羽島大会を開催することになりました。
午後は【一般公開】で、はちまん正人＆羽島高校吹奏楽部　ジョイントコンサートを開催します。みんなで一緒に楽しみましょう。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。よろしくお願いいたします。
羽島大会実行委員長　永田　ルミ



会員募集中！
表紙の絵も募集中！
右の連絡先へ
お問い合わせください
お待ちしてます



岐阜県手をつなぐ育成会

〒500-8309
岐阜市都通２－２ 岐阜市民福祉活動センター１階
TEL　058－**253-8062**
FAX　058－**254-9210**
E-mail：ikuseig@alpha.ocn.ne.jp
HPアドレス：http://ikuseig.qcweb.jp/

メール
ホームページ

知的障がい・発達障がい
ダウン症・てんかんの
ある方のための保険

ぜんちの あんしん保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
少額短期健康総合保険（無告知型）2016年創設

病気やケガでの入院
最高日額1万円

虐待・差別・逮捕に対応
弁護士費用補償

誤って物を壊してしまう…
個人賠償責任補償
最高5億円
※（総合生活保険（個人賠償責任補償））
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

ぜんちの こども傷害保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
権利擁護補償付傷害保険（2016年創設）

特別支援教育を
必要とされている方の
ための保険

日常生活でケガをすることが多い…
入院・通院を日額保障

トラブルに巻き込まれた際、誰も助けてくれない…
弁護士がサポート

当事者同士での解決が難しい…
示談交渉サービス付き

ネット申込・年払・月払OK ｜ クレジットカード払OK ※ネット申込のみ

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せは下記までお気軽にどうぞ

<代理店> 有限会社ファースト・アクション
岐阜オフィス　〒502-0851 岐阜市鷺山1280-1-３階
TEL：058-295-0360
美濃加茂オフィス　〒505-0031 岐阜県美濃加茂市
新池町２丁目135-1-101
TEL：0574-28-3160

【2017年12月作成 17-T08668】
ぜんち共済株式会社
ZENCHI
関東財務局長（少額短期保険）第14号
〒101－0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号岩本町シティプラザビル5F
コールセンター　フリーコール　0120-322-150
ぜんち共済　検索　http://www.z-kyosai.com/

ぎふのいいもの

岐阜県内の事業所で障害のある人たちがつくっている「いいもの」をご紹介します

かわなみかすてら

大垣市立かわなみ作業所

ふんわりとした食感と美しい色合いを出すため、新鮮な卵をたっぷりと使い、おいしさの決め手となる　深みのある甘みに仕上げるため、国産のとち蜂蜜を使用しました。

卵の手割に始まり、白身と黄身に分けての泡立て、粉の混ぜ合わせ、かくはんと手間をかけた工程を、すべて障がいのある利用者が担っています。ふんわりしながらもしっとりとしたおいしさは、この手間をかけた製法を、かたくなまでに守っているところにあります。

本場の長崎カステラに、決して負けない味と風味を出しています。

■商品詳細

かすてら	１本(10カット入り)	1,000円
	ハーフサイズ	500円
	１カット	110円

他に　抹茶味、冬季限定ココア味があります。
（１本1,100円　ハーフ550円　カット120円）

また　かりんとう(プレーン、黒糖、青のり、ごま、しょうが、唐辛子)　各100円
かすてらすく　350円があります。

価格はすべて税込み。

■問合せ先
大垣市立かわなみ作業所　電話 0584-89-1021　FAX 0584-89-6671
Ｅメール kawanami@ogakishakyo.or.jp

この会報は赤い羽根共同募金の配分金によって発行されています。